明石市立錦城中学校　第３学年（７８回生）学年通信

飛　躍 part3

２０２４年（令和６年）
６月２６日（水）
第 １５８ 号

6月23日は沖縄「慰霊の日」でした

修学旅行で訪れた沖縄。先日の６月２３日は組織的な戦闘が終結した日で、戦後７９年を迎えました。平和記念公園で追悼式典が行われ、ＴＶ放映されていた様子を見た人もいると思います。今も戦争の傷跡が多く残る沖縄。その地を訪れた私たちも、平和について考える日にしていきたいと思います。

今後８月６日・９日・１５日と原爆の投下の日と、終戦記念日がありますが、ＴＶや新聞で特集が組まれたりして、多くの情報を目にする機会があります。その度に平和について考える機会にして欲しいと思います。

６月２３日は沖縄「慰霊の日」でした。戦後７９年を迎えた今年、沖縄戦を経験した人も高齢になり、後世に沖縄戦の惨劇を引き継ぐことが年々難しくなってきています。現在５０年以上前から、証言集を取りまとめたり、若い人達が平和についての講話を開催したりしています。修学旅行でお世話になったＮＰＯ法人の「さびら」さんも、その活動をされている団体の１つです。戦争を体験された多くの方々の思いや、平和について考える事が、現代の私たちがやらなければいけない事だと思います。

沖縄戦は１９４５年3月２６日～6月２３日までの約３ヶ月間、５０万人を越えるアメリカ兵が押し寄せました。１１万発を越える砲弾が沖縄に撃ち込まれました。今も不発弾が沖縄各地に埋まっているそうです。毎日『鉄の暴風』と呼ばれる空襲や艦砲射撃が繰り返されました。住民は昼間はガマ（自然壕）に身を潜め、夜に山で木の実を集め飢えをしのぎ、移動を繰り返しました。日に日に変わり果てていく島の様子を見ながら、地面を覆い尽くす亡骸を踏んで進むしかなかったそうです。住民・兵士を含む２０万人以上の人が犠牲になりました。その戦禍の中生き延びたご夫婦（夫９０歳　妻８８歳）が今も元気に那覇市にお住まいです。７９年経った今でも、心に深くしまい込んだはずの記憶がよみがえってくるそうです。しばらくは家族の間でも戦禍の日々を打ち明けることが出来ない惨状でした。しかし今は、後世に伝え『島を幸福の楽土へ』との思いで命ある限り語っていく決意をされています。『命どぅ宝』（命こそ宝）という言葉を胸に、戦争で踏みにじられた心を取り戻し、肯定への道を歩み続けていくと元気に日々を過ごされています。

市総体に向けて　最後まで全力でやり切ろう！！

お世話になった先生方からもメッセージが届きました

今まで７８回生がお世話になった先生方から、応援のメッセージが届き、壮行会後の部活動ごとの写真と共に廊下に掲示しました。当日最高のパフォーマンスが出来るよう、残された日数は限られていますが、最後まであきらめず頑張っていきましょう。

〇ダルビッシュ有投手は、日本人で３人目となる日米通算２００勝を達成しました。（過去　野茂　秀雄さん、黒田　博樹さん）先発登板による勝利だけで２００勝に到達したのは史上初の快挙です。ダルビッシュ投手の武器は、球界随一の多彩な変化球です。今までその投げ方を動画サイトで惜しげもなく公開してきました。苦労してつかんだ極意です。それを明かすことは、勝負の世界では不利に働く場合もあります。しかし「共有しないと他の選手の可能性の芽を摘んでしまい、野球界のためにならない」と断言しました。ダルビッシュ投手は今年３７歳のベテランとなりました。しかし後輩たちの投法を学び、時には彼らに質問しながら、新たな変化球を探求し続けています。そうした姿勢が、選手間で最新の技術を伝え合う『成長の好循環』を生み出しています。

自分の経験を伝えることで、周囲の人を高める事ができます。そして周囲から学ぶことで、自身も高めることが出来るのです。その上で何より大切なことは『まず自分自身が挑戦する事』ではないでしょうか。自らを鍛え、磨き上げていく向上心がなければ、周囲との触発も生まれないからです。

〇スポーツはよく「筋書きのないドラマ」と言われます。予想を超える感動や結果が得られることがあるからです。それは競技者だけでなく、観客からもたらせる事もあります。ですから応援する観客も「もう一つのチームメイトであり、競技者」という事になります。　今年の全国高校サッカー選手権に出場した石川県の星陵高校は、１月２日に千葉の市立船橋高校と試合を行いました。能登半島地震発生直後のため、地元から応援にくることが出来ませんでした。観客席から大声援を送っていたのは２回戦で敗退した（準優勝校の滋賀県の近江高校と対戦）神奈川県の日大藤沢高校のメンバーでした。惜しくも負けてしまいましたが、本当に心強い応援になったと思います。

２０１３年のワールドベースボールクラッシックで日本と台湾の試合が行われた時は、選手の応援はもちろんですが、両チームの応援の観客が掲げていたプラカードには、日本側は東日本大震災を支援に奮闘してくれた台湾への御礼の言葉が、台湾側は１９９９年の台湾大地震にいち早く駆けつけて支援をしてくれた日本への感謝の言葉が掲げられていました。過去には台湾は日本の占領地だった時代（１８９５～１９４５）もありますが、こうして互いに支援の手を差し伸べられる関係が築けています。今後も両国の友好関係が築いていけるようになって欲しいですね。